



著者プロフィール: 日本を代表するフラメンコギタリスト。幼少の頃よりヴァイオリンを始め、その後ギターを独習。A-JARIやチリクマルカ等のグループ活動を経て、明治大学在学中にフラメンコギターを始める。98年から長期渡西。マドリードのタブラオ「カサ・パタス」やセビージャのラジオ番組などに出演。帰国後はカニサレスとの共演やNHK「音楽のある街で」出演。主な参加CD・DVD: 風回廊(渡辺えり)、天国を見た男(沢田研二)、Boy(coba)他。Estudio ROMERO主宰。

VOL.5

ALEGRÍAS ②

～はじめに～ 前はアレグリアスの音楽的な特徴や、踊りの構成についての説明でした。今回は踊り伴唱でよく歌われるアレグリアスの歌詞をいくつか取り上げて、その詩の構造・形式を確認していきましょう。歌に興味を持つことは、踊りの更なる理解につながります。

## レトラ (letra) の構造

レトラとは歌振りのことです。歌といっても、サリーダやカステジャーノ、ブレリア、ハケ歌などはレトラとはいいません。アレグリアスのレトラは通常11コンパスで歌われることが多いですが、11コンパスの歌があるわけではないことは前回少しふれました。今回はその構造を詳しく解説していきたいと思います。アレグリアスのレトラ部分には、コプラ (copla) と呼ばれる8音節4行の歌(4行詩なのでcuartetaとも呼ばれます)が歌われます。通常1行を1コンパスで歌うので、そのままストレートに歌うと4コンパスしかありません。しかし通常、2行目を先に歌った後、1行目から4行目までを歌い直します。これで5コンパスになります。カンテソロなどでは5コンパスで歌う場合もありますが、踊り伴唱ではさらに3行目と4行目を繰り返して7コンパスで歌うことが一般的です。

2行目→1行目→2行目→3行目→4行目→3行目→4行目(全部で7コンパス)

しかしそれでもまだ短いので、コレティージャ (coletilla) という4コンパス分の別の歌(お囃子のような軽い挿入歌なので伝統的にjuguetilloとも呼ばれます)を付けて11コンパスにしています。

### ワンポイント

音節 (sílabas) とは、一息で発音される音声の最小単位のことです。日本語の場合は簡単にいうと母音の数だと思ってください。

あいうえお (a-i-u-e-o) → 5音節      かきくけこ (ka-ki-ku-ke-ko) → 5音節

スペイン語には日本語に無い二重母音や、子音が連続する単語があります。この場合の音節の数え方は一見複雑そうですが、よくあるケースを表にしてみましたので参考にしてください。

二重母音 / 子音・母音	ai-re 空気, oi-ga もしもし, bai-le 踊り, rei-na 女王
母音・子音 / 子音・母音	al-ma 魂, san-to 聖人, her-ma-no 兄弟, a-lum-no 生徒
母音・子音・子音 / 子音・母音	cons-tan-te 不変の, obs-tá-cu-lo 障害, ins-tante 瞬間

その他、二重子音も1子音としてかぞえ、ch, ll, rrは1文字として考えます。

li-bro 本, co-pla (8音節4行の) 歌, mu-cho たくさん, ca-ba-llo 馬, tie-rra 土地

## コプラ (copla)

コプラは8音節4行の詩(cuarteta)で出来ています。まずラ・ペルラ・デ・カディスや最近ではエストレージャ・モレンテ(1980-)の録音でも有名なコプラを見ていきましょう(歌詞の下に参考にした歌手を記しておきます)。

### 例①

pena me da si te veo,	あなたに会うと辛いけど
y si no te veo doble,	会わないと、もっと辛い
no tengo más alegría	一番嬉しいのは
que cuando mientan tu nombre.	あなたのこと(名前)を聞くとき

Niña de los Peines, Enrique El Culata, La Perla de Cádiz, Miguel Poveda, Estrella Morente

4行とも8音節で出来ていて、通常2行目と4行目の終わりは韻をふんでいます。すべての単語を音節に区切ってみましたので、参考にしてください。

<u>pe-na</u> <u>me</u> <u>da</u> <u>si</u> <u>te</u> <u>ve-o</u> ,	8音節
<u>y</u> <u>si</u> <u>no</u> <u>te</u> <u>ve-o</u> <u>do-ble</u> ,	8音節 doble(oとeの二つの母音が韻をふんでいる)
<u>no</u> <u>ten-go</u> <u>más</u> <u>a-le-grí-a</u>	8音節
<u>que</u> <u>cuan-do</u> <u>mien-tan</u> <u>tu</u> <u>nom-bre</u> .	8音節 nombre(oとeの二つの母音が韻をふんでいる)

先述の通り歌う順番に法則がありますので、実際に歌う順で歌詞を並べ替えると以下ようになります。

2行目	y si no te veo doble,
1行目	pena me da si te veo, (pena me daの代わりにme da penitaやtengo penaと歌う場合もある)
2行目	y si no te veo doble,
3行目	no tengo más alegría (no tengoの代わりにque no sientoと歌う場合もある)
4行目	que cuando mientan tu nombre. (mientanの代わりにyo escuchoと歌う場合もある)
3行目	no tengo más alegría
4行目	que cuando mientan tu nombre.

### ワンポイント→歌

上記のようにアレグリアスのコプラは、音節の数や韻のふみ方など規則的に出来ています。つまりメロディーの区切れ目や節回しにも規則があるので、コンパス数が同じだからといって、ロメーラやカンティーニャなどの他の歌を歌っても振りにあう場合は少なくなってしまいます。踊りの振りに充分あった歌を選んで歌うようにしてください。アレグリアスは特に踊られる機会の多い曲種です。たくさんの歌を覚えて、効果的な伴唱が出来るといいですね。

### ワンポイント

アルティスタの多くは出身地を芸名にしています。アレグリアスの本場カディスの名前がついている歌手は、皆アレグリアスが得意といっても過言ではありません。

Aurelio de Cádiz (1887-1974)、Pericon de Cádiz (1901-1980)、El Flecha de Cádiz (1907-1982)、La Perla de Cádiz (1925-1975)、Beni de Cádiz (1929-1992)

その他、Ignacio Espeleta (1871-1938)、Manuel Vallejo (1891-1960)、Manolo Vargas (1907-1970)、Enrique El Culata (1919-1983)、Chato de la Isla (1926-2006)、Chano Lobato (1927-2009)、Rancapino (1945- ), Mariana Cornejo (1947-2013)、Camarón de la Isla (1950-1992)、などたくさんの歌手がアレグリアスを得意としています。

カラコレスやロメーラなどと違ってアレグリアスにはいろいろな曲がありますが、メロディーの高さによって大きく3種類から4種類に分けることができます。歌い手によって始まる音や拍は様々なので同じ歌詞でも違うメロディーになる場合もありますが、有名な録音などから大まかな分類をしてみました。

### 低音域の旋律のコプラ

初めて(1929年)録音されたアレグリアスとして有名なマヌエル・トーレ(1878-1933)の歌詞を二つ紹介します。マヌエル・トーレは主音の上4度の音から始まって音域は主音から5度ぐらいまでの間で歌っています。

#### 〈例②〉

por pasar el Ebro a verte	エブロ川を渡ってあなたに会うため
Yo le di un duro al barquero	船頭に1ドゥーロあげた
los amores de Navarra	ナバーラの色恋沙汰は
son caros pero muy buenos	高くつくけど、素晴らしいもの
Manuel Torre, Niña de los Peines, Niño de Gloria, Enrique el Culata, Estrella Morente	

歌詞中のエブロとはアラゴン地方の街サラゴサを流れるスペイン第2の川のことで、ナバーラはその更に北の地方です。アレグリアスの起源がアラゴンのホタという説もうなずけますね。ニーニャ・デ・ロス・ペイネス(1890-1969)、ニーニョ・デ・グロリア(1893-1954)、エストレージャ・モレンテなどは3度から6度の間の旋律で歌っています。

#### 〈例③〉

A Cái no le llaman Cái,	カディスのことをカディスとは呼ばず
que le llaman relicario,	皆、レリカリオ(聖堂)と呼んでいる
porque por patrona tenemos	なぜならカディスの守護聖人は
y a la Virgen del Rosario.	ロサリオの聖母様だから
Manuel Torre, Aurelio Selles(Aurelio de Cádiz), Beni de Cádiz, Mariana Cornejo	

この歌は1行目から歌われることや(1→2→1→3→4→3→4)、中音域の旋律で歌われることも多々あります。3行目の単語の順番がporque tenemos por patrona と変わる場合もあります。

### 中音域の旋律のコプラ

主音の5度上やオクターブ(8度)上の音から始まる旋律で、音域は3度から9度ぐらいの間です。このタイプの旋律は踊り歌として一番多く歌われています。カマロンの1stアルバムにも入っている有名な曲を紹介します。

#### 〈例④〉

barrio de Santa María	サンタ・マリア街
qué desgraciaíto fuiste,	なんと不幸な目にあったことか
un barrio con tanta gracia	こんなにグラシア(魅力)あふれるこの街が
qué de bomba tú recibiste.	こんなに爆弾を受けるなんて
Pericón de Cádiz, Manuel el Agujeta, Camarón de la Isla	

曲中のサンタマリアとは、カディスの言わずと知れたフラメンコ地区です。紀元前にフェニキア人によって開かれたこの港町は、カディル(当時の名)の時代から近代まで民族の興亡の地でした。ゴヤの有名な絵「5月3日」が描かれたスペイン独立戦争(1808~1814)で、この古都カディスもナポレオン軍から砲撃を受けます。歌詞に出てくる gracia(気品・魅力)はアレグリアスの持つ大切な部分です。グラシアを持って踊ってくださいね。

音源は片桐勝彦HPで聴けます! URL <http://www.toshima.ne.jp/~kata/katsu>  
同内容のバルマクラス、スタジオロメロで開催中。7月8、22日、20:40~終電ぐらいまで

中音域の旋律としては他に、下記の歌もよく耳にします。

### 〈例⑤〉

Sin que lo sepa la luna	月にも気付かれずに
navega por la bahía	入り江を航海する
la barquita que me trae	小舟は私に運んでくれる
ay, pulseras y mercancía.	ブレスレットと品々を

El Torta (Juan Moneo), Luis Moneo

同じように navega por la bahía から始まる歌詞でも、その後には entre Cói y San Fernando と続く歌詞も有名です。カデイスは港町なので、navegar (航海する)、barco (船)、marinero (船乗り) といった言葉が多く出て来ます。

## 高音域の旋律のコブラ

主音の5度上からオクターブ(8度)、更に10度の音に飛ぶ旋律で、音域は5度(3度)から10度ぐらいの間です。このタイプの旋律は踊りの二つ目の歌としてよく歌われています。カマロンのライブアルバム「Flamenco vivo」中の「Un tiro al aire」の2歌3歌を紹介します。

### 〈例⑥〉

sé que te llaman María	あなたがマリアと呼ばれていることも
(y) por apellido Rosa	姓がロサということも知ってます
(ay) vale más tu dulce nombre	あなたにはその優しい名前がふさわしい
que el Pilar de Zaragoza	ピラール・デ・サラゴサよりも

Manuel Vallejo, Juanito Valderrama, Camarón de la Isla, El Torta



ヌエストラ・セニョーラ・デル・ピラール聖堂

「el Pilar de Zaragoza」とは例②に出て来たサラゴサにある、カトリック教会の聖堂ピラールの聖母様のことです。アラゴンのホタがこの歌詞の中にも影響しているのは驚きですね。この曲は近年高音域の旋律で歌われることが多いですが、参考にあげたファニート・バルデラマ(1916-2004)は低音域で歌っています。

### 〈例⑦〉

quién te ha quitaito el color	あなたは誰のせいで
(que) estás tan descolorida	そんな憂鬱になってしまったのですか
te lo quitó un marinero	それはある船乗りの
(que) con palabritas de amor.	愛の言葉によって

Chano Lobato, Camarón de la Isla

この曲は例⑥よりも更に高音域(8度~11度)の旋律で、10度の音から始まります。オクターブ低く歌えば低音域のメロデーと同じ感じになりますね。

## ワンポイント→踊り・歌

アレグリアスのコブラを音域別に見て来ましたが、まず大切なことは自分の踊りのどこから歌が入ってどこで終わるかを理解することです。歌振りの2コンパス目や3コンパス目などに強い足が入っていて(レマーテ)、歌をその間休んでもらうような振付もあります。また11コンパスではなく9コンパスで振付しているケースもありますので、気をつけてください。2歌などの盛り上がった状態での振付には、テンションの高い歌を歌ってもらう方が合う場合が多いので、歌い手にすべてまかさず自分の振付の意図を理解する必要があります。ここで歌い手が注意することはキーの問題です。2歌などの高音域の歌を歌おうとするばかりに全体のキーを下げってしまうと、他のパートが盛り下がってしまいます。一番盛り上げたいブレリアやシメ歌の部分のことも考えてカポタストの位置(キー)を決めてください。音域だけではなくテンションの高い歌もありますので、自分の発声(特に低音域のボリュームなど)を知った上で、効果的な歌を選ぶようにしましょう。

今回は歌振りの中のコブラの部分の説明で終わってしまいました。次回はその後半で歌われるコレティージャ(coletilla)の紹介をしたいと思います。